

こんにちは！ 室長の工藤です。

歴史資料室では来月4月9日から、市民図書館内でスポーツをテーマとして展示を予定しています。今回はそれに先駆けて、明治時代の「野球」に関する話題を提供いたします。

青森県高等学校野球連盟が昭和47年(1972)に発行した『青森県高野連史』では、青森県に野球がもたらされた時期について、明治10年(1877)～11年頃の東奥義塾、明治19年の青森師範学校の2説に加え、明治15、16年頃から行われていたとする記述を紹介しています。ただ、例えば東奥義塾について「詳細はさだかでない」とするように、実証的な歴史的事実をつかまえてはいないようです。

私が調べたところでは、青森市内については明治32年10月22日、造道にあった陸軍歩兵第五連隊の練兵場(現浪打1・2丁目)で、青森県師範学校(現花園2丁目)と東奥義塾が試合をし、2対38で師範学校が敗れるという『東奥日報』の記事を確認できます。また、この試合の約1か月前の9月3日、青森師範は秋田に遠征して秋田師範と野球とテニスの試合をし、ともに青森師範が勝利を収めたということを記した研究論文もあります。

さらに、明治33年に開校した青森県第三中学校(後の青森中学校、現青森高校)にも野球部ができます。そして、明治36年11月1日には八戸の青森県第二中学校との試合が組まれていたことが分かります。ですから、少なくとも青森市内では明治30年代に師範学校と第三中学校に野球部があったことが判明します。とくに第三中学校は函館に遠征をするなどして実力をつけ、明治40年頃に「野球界の花役者」と言われたショートの田村栄一選手を輩出するなど「黄金時代」を迎えます。



第三中学校(歴史資料室蔵)

明治40年代になると、これら学校の卒業生や現役生などをもって組織されたクラブチームが續々誕生します。いくつか紹介しますと、青森中学の現役生と卒業生の鉄腕倶楽部、青森中学現役生の甲田倶楽部、師範学校現役生と卒業生の合浦倶楽部、小学校職員による老球倶楽部のほか、構成員は判明しませんが知友倶楽部、韋駄天倶楽部、近隣村では野内村の旭倶楽部など、地域の野球熱は高まっていきました。

そして、大正2年(1913)8月、東奥日報社が主催する大会が4日間にわたって開催されるに至りました。始球式、優勝旗…青森県の野球の歴史に重要なエピソードもあるこの大会については、来週紹介いたします。